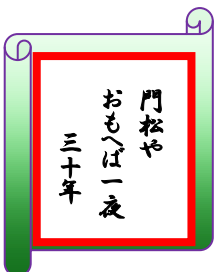


# 彩の歳時記

平成二十四年 一月



松尾芭蕉【1644～1694】の年頭の句。「さまざまな事思い出すさくらかな」と

同様、何の工夫もないような句でありながら、心に訴えかける句です。

思えば三十年になるのだからかと、年の初めに過ぎ去りし時を想う。

それは、まるで一瞬(一夜)であったような気がします。年頭に三十年前の

自分の状況や時代風景など思い起こしてみるのも、正月ならではの事かも知れませんが。

年神様の寄り処の門松と言えば、一休禪師【1394～1481】の有名な言葉があります。

「門松は冥土の旅の一里塚めでたくもあり、めでたくもなし」。近年は門松を飾る家も少なくなり  
ましたが、大型店舗や集合住宅などに、伝統は受け継がれ、正月気分を醸し出しています。



## 一月の異称

睦月 親族一同集って宴をする「睦び月(むつびつき)」が語源。他に、祝月・嘉月・端月など。

正月は、本来旧年が無事に終わった事と新年を祝う行事なので今年は『**賀正**』には戸惑いも。

## 一月の暦

一日 元日 国民の祝日 「元旦」の下線は地平線を表し、「日」は、昇る太陽を表す。



元日や手を洗ひをる夕ころ

芥川龍之介【1892～1927】

新年祝賀の儀、国事行為。宮殿・松の間にて、天皇皇后両陛下が、皇族をはじめ、三権の長等、要人  
在日外交団の長とその配偶者から新年の祝賀を受けられる儀式。



二日 皇居一般参賀 宮殿東庭にて天皇皇后両陛下・皇族方が、国民から祝賀を受けられる行事。



第八十八回箱根駅伝(二日・三日) 昨年は早稲田大学が優勝、さて、今年は何？

六日 小寒【二十四節気】寒さが最も厳しくなる前という意味で『寒の入り』。『節分』までが『寒の内』。

出初め式(ぞめしき) 一九五九年に始まった江戸火消しの伝統行事。東京は有明のビッグサイト東駐車場  
にて開催。パレードや木遣り行進・はしごのりなどが披露される。各都市の消防局でも開催。

七日

七草 人日の節供(一月七日)の朝、春の七草芹・なずな・御形(ぎきょう)・はこべら・仏の座・すずな

すずしろ)が入った粥を食べ、一年の息災を願う風習。この日までが『松の内』。



七草粥

八日 正月事納め 門松など正月飾りを外し、正月の各種行事を終える。正月気分を終え、元の日常に。

九日 成人の日「おとなになったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝いはげます」が趣旨。

十一日 鏡開き 年神様や仏に供えた鏡餅(鏡の円は円満の意を下げ、雑煮や汁粉などで食べる年中行事。  
かみびら

切るは切腹を連想させるので木槌などで割り、「切る」「割る」の言葉を避け「開く」という。

十五日 小正月(こしょうがつ) 七日までを「大正月」この日をこう呼ぶ。忙しかった主婦の労いから、女正月とも。

十七日 阪神淡路大震災の日 1995年のこの日、死者約6300人、30万人以上が被災。

「防災とボランティアの日」として制定された。十六年後の30月11日の東日本  
大震災は死者行方不明者、約20,000人、避難・転居者は約34万人に。

二十日 大寒【二十四節気】「寒の内」の真ん中にあたる。落のとう花咲く【七十二候】

## 一月の歌

母さんの歌

昭和33年(1958年) 発表

作詞・作曲の窪田聡【1935～】は、東京生まれ。戦争中、疎開し、現在は岡山県瀬戸市

在住。昭和20年に開成高校卒業後、合格していた大学に進学せず文学を志し、家出。

うたごえ運動を中心として活動。家出当時に母から届いた小包の思い出や戦時中

疎開していた長野県信州新町の情景が歌い込まれている。うたごえ運動を通して広

まり、ダークダックス・ペギー葉山が歌唱、NHK『みんなのうた』でも放送された。



かあさんが夜なべをして  
手袋あんでくれた  
木枯らし吹いちや冷たかろうて  
せつせとあんだだよ  
ふるさとの便りはどどく  
いろりのにおいがした  
かあさんは 麻糸つむぐ  
一日つむぐ  
お前もがんばれよ  
ふるさとの冬はさみしい  
せめてラジオ聞かせたい